

分科会報告

第1分科会 豊浦町立大岸小学校



1. 研究主題

「生き生きと学び、伝え合う力を育てる」～書く活動を通して～

2. 研究内容

研究仮説1を『子どもたちの興味関心を大切に、「書くこと」の指導の工夫を通して自分の思いや考えを適切に表現し、一人ひとりの豊かな表現力や伝え合う力を育むことができるであろう。』とし、研究仮説2を「書く活動を国語科の全領域、他教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図ることで思いや考えを伝え合い、深める力を育てることができるであろう。」とした。

3. 公開授業

①1年「けんかした山」2年「きつねのおきやくさま」各学年1名。児童の実態に応じたワークシートを用意し、お面を使うなど低学年らしい動きのある授業を展開した。

②3年特別支援学級「詩を書いてみよう」1名。バーチャルクラスメイトの設定やビデオを使う等、コミュニケーション能力を高める授業を展開した。

③5年「大造じいさんとがん」6年「川とノリオ」ワークシートを工夫し、間接指導の中で自主的に書き込みをしながら課題を解決する授業を展開した。

④参観授業3年「わすれられないおくりもの」4年「一つの花」音読を大切に、発問を分かりやすくていねいに行うなどの工夫をしながら、吹き出しを使ったワークシートを活用した授業を展開した。

4. 研究協議

子どもたちの生き生きとした表情や態度から、3年間の授業実践の積み上げが成果として何うことができたとの感想があり、国語の領域「書くこと」と「書く

活動」の内容の整理が必要との課題等も出された。アトラクションで発表した高学年の「おふけし太鼓」も好評だった。助言者からは、書くことだけが目的ではなく、話すために書く活動につなげていく等、活動に広がりをもたせること。また、言語活動の充実と書く活動を中心に据えた指導過程の工夫をさらに進めることが大切であるなどの講評をいただいた。

第2分科会 壮瞥町立久保内小学校



1. 研究主題

「確かな学力を身につけ、進んで学習できる子の育成」～わかって楽しい算数科の授業をめざして～

2. 研究内容

研究の仮説1にかかわって、①学習の仕方の研究「ノート指導の研究」「家庭学習や宿題の仕方の指導」、②基礎的・基本的な知識・技能の習得「計算力を高める指導の工夫」、③複式授業の指導の研究「学習リーダーを中心にした話し合いの仕方の工夫」。仮説2にかかわって、①意欲を高める指導の研究「算数的活動ができる教材・教具の工夫」「スパイラルの単元の研究」。仮説3にかかわって、①日常に生かす指導の研究「算数の指導計画の工夫」「算数タイムの工夫」を授業を通して検証してきた。

3. 公開授業

①1年「どちらがながい」具体物を操作する算数的活動を取り入れた授業を展開した。

②2年「新しい計算を考えよう」発表活動を工夫した算数的活動を取り入れて授業を展開した。

③3・4学年（複式学級）3年生「三角形のなかまを調べよう」、4年生「わり算の筆算を考えよう」実際に測定したり、説明する算数的活動を取り入れた授業を展開した。

④5・6学年（複式学級）5年生「分数をもっと知

ろう」、6年生「分数のかけ算とわり算(1)」ホワイトボードを活用して発表活動を工夫した算数的活動を取り入れた授業を展開した。

4. 研究協議

①子ども一人一人に応じたヒントカードの有効活用。②同時間接指導では、部分ずらしを取り入れた児童の把握。③学習過程の中に見取りができる形をどう仕組むかが課題である。等という意見が出された。助言者からは、①自分の考えをもつと共にお互いの考えを吟味することで学習を振り返るなど児童主体となる授業づくり。②自力解決の場と時間を確保し、学び合うことの充実感を実感できる授業づくり。③日常生活との関連を図った授業の充実について、他教科等において算数で身に付けた知識・技能や思考力、判断力、表現力等を活用して様々な学習活動を展開することが大切である。等の講評をいただいた。

第3分科会 伊達市立関内小学校



1. 研究主題

「基礎・基本の定着を目指し、意欲的に学ぶ子どもの育成」～算数科における主体的な学習活動を目指して～

2. 研究内容

基礎・基本の定着を目指すため、子どもたちが考える楽しさやわかる喜びを味わうことのできる指導方法の工夫を図り、算数科で身に付けた学力を日常の生活や他教科等へ活用していくことで子どもたちの主体的な学びを培うことができると考え、本研究主題を設定した。具体的な学習内容としては、算数的活動を中核に、実態把握、既習事項の活用、つまずきの予測、課題(問題)提示、ノート工夫、板書の工夫、自力解決と話し合い・まとめの発表、見通しを持たせる支援という8つのストラテジーを取り入れた指導方法の工夫に努めてきた。

3. 公開授業

1年生「たし算」: 1位数どうしの繰り上がりのある

計算の仕方を考える授業、2年生「新しい計算を考えよう」: 乗法の答えの導き方を理解させる授業、3年生「あまりのあるわり算」: わり切れない除法計算を考えさせる授業、4年生「わり算の筆算」: 2位数÷2位数の計算の仕方を考えさせる授業、5年生「分数と小数」: 整数の除法の商を分数で表す授業、6年生「分数のかけ算とわり算を考えよう」: 分数÷整数の計算を整数の除法に帰着して考える授業をそれぞれ公開した。

4. 研究協議

1年生は、シートを使つてのリーダー学習がスムーズであった。2年生では、ノート学習の成果が表れており、見やすく感心した。3・4年生は、ヒントカードが効果的であった。5・6年生は、子どもたちが学習課題を自分のものにしており、主体的に取り組んでいた。大事な数字には○、聞かれているところには下線を、全学年に定着していた。また、子どもたちの考える楽しさやわかる喜びが授業の随所で見られた等の意見をいただいた。助言者からは①考え、伝えることが楽しい授業づくりにつながる。②キーワードは“時間配分”と“わたり・ずらし”であり、誤答も扱う授業展開が大切である等のご指導、ご助言をいただいた。

第4分科会 室蘭市立喜門岱小学校



1. 研究主題

「わかる・できる・伝わる喜びを感じ、意欲的に学び続ける子の育成」～確かな力を身に付けさせ、自らの学びを深める国語科の指導のあり方～

2. 研究内容

本年度は、研究仮説3『『かんがえる』段階において、相互発信や相互理解などの言語活動を通じたかかわり合いを意図的に設定することにより、子どもの学びについての自信や実感を伴った理解が深まるであろう』に重点を置き、「ガイド学習」を取り入れた話し合い活動、「振り返りカード」などを用いた自己評価・他者評価の工夫に取り組んできた。